

Meet the Musicians

楽団員紹介

洗練された音色を操るフルート博士

高野 成之

Shigeyuki Takano

[フルート&ピッコロ奏者]1989年6月入団

趣味:フルートの改良、ピカチュウ



©N.Ikegami

大切な「音楽鑑賞教室」

両親は邦楽家。もともと琴やピアノを習っていましたが、小学4年生のときに学校にオーケストラが来て、そこで惹かれたのがフルートでした。ですので、小学校や中学校での音楽鑑賞教室は自分にとっての原点。とても大切にしている演奏会の一つです。

ロック歌手デヴィット・ボウイの《プリテン：青少年のための管弦楽入門》のナレーションのきっかけに衝撃を受け、学校公演で当団が楽器紹介をするときのナレーションも担当しています。低い声でかっこよく話す練習もしましたが、マイク乗りが悪かったので高めで喋るようになりました(笑)。

趣味はフルートの改良

6年前に笛工房アイハラの相原さんと出会ったのがきっかけで、相原さんが制作、私が実際に使って研究という形で、アイデアを出し合いながらフルート改良をしています。

まず初めに制作したのは、“左構え”のフルート。40数年右構えばかりをしていると、なんだか腹が立ってきて(笑)。機能的には普通のフルートと全く変わらないものを作っていただきました。もっと低い音も出したいと思い、G音まで出るもの、さらには片手で吹けるものを制作。吹奏楽の楽器には、簡単に手の届く片手楽器がないので、これから広めていきたいです。

最近、右手・左手の小指のオンオフを逆にしたフルートを試作中。用がなくても抑えなければならなかった右手の小指を、抑えなくても良いようにした夢のフルートです(笑)。

いわゆる一般的なフルートは5本。このほかに、システム自体を改良したものや、側部管がそれぞれ5~6本。頭部管は10本近くあります。ブラムスくらいまでの時代の曲には木管系の柔らかいもの、近現代の曲では金属の頭部管に変えてみる等、曲によって楽器や材質を使い分けています。二コ響は、会場では見えないような細かい部分もアップで映してくれます。普通の楽器に見えても、実は材質が特徴的だったり……是非配信でご覧いただきたいと思います。



左構えのフルートでオーケストラの演奏も。

インタビュー:事務局